

建築ウォッチング・講演会・シンポジウムを開催

1月23日(土)～2月7日(日)にかけて、JIA三重地域会主催の「建築ラリー」が開催された。

■1月23日(土) 建築ウォッチング「建築家と松坂を歩こう」

建築ラリー第1弾として1月23日に建築ウォッチング「建築家と松坂を歩こう」が開催され、一般参加者13名を含む26名の参加があった。

かつて、お伊勢参りの人々で賑わった松坂は、戦火を免れたこともあり往時の風情をどめるまち並みが点在している。一行は、旧参宮街道沿いの史跡を案内してもらいながら「松坂商人の館」へ向かった。江戸時代の



松坂商人の館にて

豪商を生んだ松坂は商人の町として大いに栄えたが、豪商の一つである小津家の旧宅を復元したのが松坂商人の館である。小屋組みが露出した広い土間、中庭から柔らかな光が入る座敷、そして本日特別公開という女中部屋などを見学することができ、参加者は往時の町屋建築を堪能することができた。

次に本居宣長旧宅跡の筋向いにある「旧長谷川邸」を訪れた。2013年に長谷川家から松阪市に寄贈された豪商の旧宅で、現在は日・祝日のみ一般公開されている。当日は土曜日ながら市のご厚意で特別に入館させていただいた。江戸中期に建てられた主屋は、ほぼ当時の状態で残されている貴重な文化財である。建物を見学しながら、調査の際に

蔵から出たという小判や御用箱など豪商の家ならではの生活用品も見ることができた。

お昼は、旧長谷川邸と軒を並べて建つ江戸中期の町屋「見庵」にて松坂牛肉弁当に舌鼓をうった。

午後は、幕末期に松坂城の警護武士の屋敷として建てられた「御城番屋敷」を見学したあと、本居宣長記念館と旧宅を見学し、帰路についた。

本居宣長旧宅でも普段は見学できない2階の書斎にも特別に上がることができ、今日は特別見学の多い幸運な一日となった。地元のガイドさんをはじめ、ご協力いただいた関係者の皆さんありがとうございました。

村林 桂 |
村林桂建築設計事務所



■1月30日(土) 建築ウォッチング「建築家と四日市を歩こう」

建築ウォッチングの第2弾「建築家と四日市を歩こう」は、四日市市の東側に位置する『四日市旧港エリア』を散策し、最後にコンビナートの夜景クルーズに乗るという行程。夜景クルーズの乗船者数が一番少ないというこの寒い時期にもかかわらず、25名の方に参加していただきました。

JR四日市駅をスタートし、細い路地沿いに



幻想的な工場群・夜景クルーズにて

居酒屋が建ち並ぶレトロな商店街、現役最古の跳開式可動鉄道橋梁で重要文化財に指定された「末広橋梁」、波の力を弱めるため堤防の腹部に穴をあける工夫を凝らした「潮吹防波堤」など歴史的・文化的遺産のみならず、たくさん見どころを語り部の方に説明していただきました。また「寄生獣」「MOZU」などの映画のロケ地としてもよく利用される四日市港境界は、ファンにとってはたまらない場所だそうです。しかし、このエリアには軍需工場があったため太平洋戦争時に大空襲を受け、現存する名建築と言われるものは少ないのが、少し残念でした。

そして、夜の帳がおりる頃、夜景クルーズに乗船。千歳棧橋を出発して塩浜、石原、

霞地区の工場群を30人乗りのクルーザーで1時間かけて回ります。昼間見る殺伐とした工場群は幻想的な感じに変わり、多くの工場観賞愛好家からは四日市は憧れの「聖地」と考えられているそうです。

「しかし、このコンビナートも今から50年前はすごかった。今テレビで見る上海や北京の状況と全く一緒だった」と説明してくださる語り部さん。当時のいろんな苦勞を公害の語り部として、四日市で後世に受け継いでおられるそうです。当然、今では臭いも、遠くが霞んで見えないということもないです。

四日市が観光のまちとして皆さまに親しまれるように、これからもこうしたガイドを続けていきたいとのことでした。

川崎貴覚 | 川崎建築設計室

